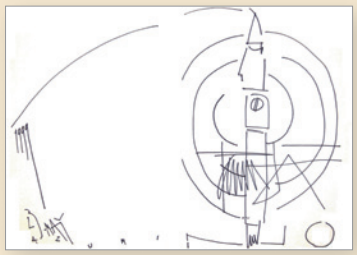
From the Guestbook ゲストブックより

2005 年 3 月 23 日
アンソニー・ブラウン（イギリス）

2003 年 6 月 13 日
ブライアン・ワイルドスミス（イギリス）

1995 年 11 月 5 日
ヘレン・オクセンバリー（イギリス）



1999 年 5 月 23 日
クヴィエタ・パツォウスカー（チェコ）

1998 年
ドゥシャン・カーライ（スロヴァキア）

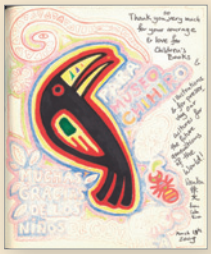
ユゼフ・ヴィルコン（ポーランド）

2009 年 7 月 11 日
アンドレア・ペトルリック・フセイノヴィッチ（クロアチア）

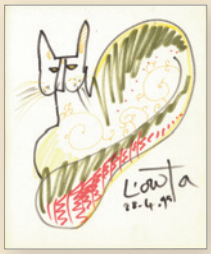
2004 年 12 月 14 日
ユーリー・ノルシュテイン（ロシア）

1992 年
エリック・カール（アメリカ）

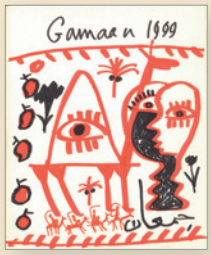
クラウディア・レニャッツィ（アルゼンチン）



2009 年 3 月 14 日
ウェン・シュウ（コスタリカ）



1995 年 4 月 28 日
セイフ・エディーン・ロウタ（スーダン）



1999 年
フセイン・ジャマアーン（スーダン）

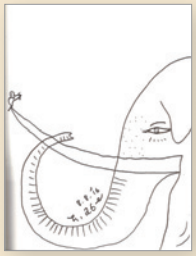
2002 年 5 月 23 日
武建華（中国）

2008 年 7 月 6 日
ボロルマー・バーサンスレン
（モンゴル）

各国の絵本画家、絵本関係者からの訪問を受ける
ちひろ美術館のゲストブックには、多彩なメッセージが残されています。

2016 年 3 月 16 日
チョ・ウンヨン（韓国）

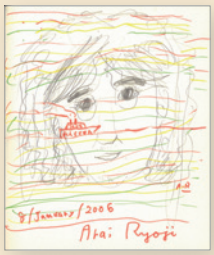
2006 年 4 月 13 日
パク・チョルミン（韓国）



2016 年 8 月 8 日
あべ弘士（日本）

2010 年 9 月 30 日
伊藤秀男（日本）

1993 年 11 月9日
丸木俊（日本）

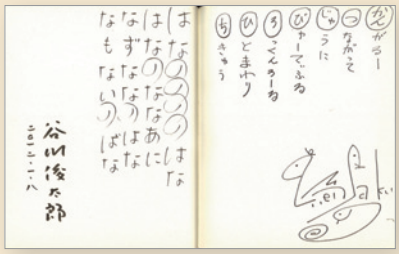


2006 年 1 月 8 日
荒井良二（日本）

2013 年 1 月 27 日
出久根育（日本）

1995 年 12 月 19 日
瀬川康男（日本）

2008 年 8 月 24 日
西村繁男（日本）



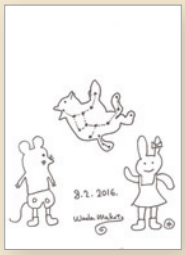
2012 年 1 月 8 日
谷川俊太郎・谷川賢作（日本）

長新太（日本）

1999 年 8 月 21 日
田島征三（日本）

2010 年 1 月吉日
武田美穂（日本）

2003 年 6 月 7 日
与勇輝（日本）



2016 年 8 月 2 日
和田誠（日本）

来館者感想ノートより

1977.9.11［東京］

思っていたよりちっちゃなずっとちっちゃな美術館でした。私、ほっとしています。はいる時くつぬいで……なんだかちひろさんのお家に遊びにきたような、そんな感じ。そこにはちひろさんはいないのだけれど、みんな集まってくるのはあたたかい人ばかり。日だまりがあって、ちっちゃな安らぎがある。とってもとってもステキです。また、そのうち絵本に会いたくなったら、あたたかい気持ちにあいたくなったら、学校の帰りでもよります。 ほんとうにほんとうにありがとう。

1983.9.29［東京］

今日は父と来ました。はじめは行くか行かないかで悩んでいたようでしたが、絵を見始めると私よりハッスルして、「これは関東大震災あとの絵だ」とか「お父さんの子どもの頃も、よくこんなことがあったなあ」なんて、本当になつかしそうに話すのです。童心に帰った父の笑顔は「来てよかった」と言っているようで、私はとってもうれしかった！

1995.1.11［東京］

僕は 25 歳。大阪で証券マンをしています。いつもシビアな環境の中で力を出し尽くした後、帰宅してから部屋にかかっているちひろさんのカレンダーを見て、我に返るような感じです。心温まる、そして不思議な力を与えてくれる絵ですね。

1998.5.23［安曇野］

家族 5 人で東京福生から来ました。ここのように障害者にもやさしい所ってあまりなくて、一緒に楽しめないことが多いのですが、今日は足の悪い主人と一緒に見学できたのが何よりうれしかったです。

2000.8［安曇野］

戦争の絵をみていたら、美術館だということも忘れて、泣き出してしまいました。悲しくて、せつなくて……2度とこんなことはしてはいけないと、改めて思いました。 百の言葉より、千の言葉より、たった一言、たった一枚の絵で、伝えたいことを伝えられるちひろさんはやはり素晴らしいと思います。 これから、私はどんどん成長して、大きくなっていきます。その中で、今まで感じた小さかった頃の気持ちを忘れず、生きていきたいと思いました。

2002.12.15［東京］

再オープンの当初は、遠い知人の娘さんが知らぬ間に成長していて、久しぶりに会った時のような軽い戸惑いもありましたが、以前の美術館の時より足しげく通っている自分に気が付きます。何気なく立ち寄って、ホッと一息つける空間がこの町にある喜び……引っ込み思案だった少女が社交的な大人の女性に成長したような不思議な驚き。いつまでも変わらないちひろさんの絵と、変わっていくちひろ美術館。その 2 つが 1 つになって、この魅力的な空間があるのだと、思います。ちひろさん、お誕生日おめでとう。

2005.8.25［東京］

初めて来たわりには昔から知っていたような感じがしました。ちひろさんの絵はあたたかくて優しくて、不思議な絵です。中学の宿題で来たのに、当初の目的を忘れてちひろさんの世界に引き込まれていきました。

2006.7.15［安曇野］

長時間ドライブのせいか、ついウッドチェアーでウトウトしてしまいました。目がさめて恥ずかしかったのですが、実は美術館の趣旨に沿っていたのですね。改めてこの美術館のコンセプトの確かさに感歎いたしました。

2008.3.23［安曇野］

こども病院に 3 ヶ月入院している二女を今日は夫に看てもらい、春休みのひととき、長女とふたり、穏やかな気持ちで過ごさせていただいています。こども病院にもちひろさんの絵がいたるところに飾られ、気持ちを和ませてくれます。やさしい春の花……いいですね。

2008.4.26［安曇野］

初山滋さんの絵を見に来ました。素晴らしかったです。色使い、色彩感覚、あまりに素敵で体の力が抜けて、倒れそうになりました。絵を見た後、体の中を流れる血や空気が全て変わったように感じた。絵をずっと見ていたいです。

2008.10.24［安曇野］

「絵本の歴史」、すばらしかった。他のどこでも見たことがありません。世界がひろがってすてきな企画です。一度では頭に入りきりません。後日、また訪れたいと思っています。

2008.12.4［東京］

今日は、建物見学が来館の一番の目的でした。この建物を見ている間、すごく穏やかな気持ちでした。自然・建築・ちひろさんの絵、ひとつひとつの関係性から生まれる時間を過ごせたからだと思います。絵や建築、いろいろなことで人が幸せな気持ちになれるものを創りだせることの素晴らしさを、改めて実感しました。来年から設計の仕事をします。この建物に負けないくらい、素敵な建築を設計したいと思います。

ちひろ美術館にご来館いただいた方々に、感想や思いを自由に綴っていただくノート「ひとことふたことみこと」。
開館以来、多くの来館者の声を集めてきたそれらのノートは、現在では、両館であわせて800冊以上。
合本・製本されて大切に保管されている「ひとことふたことみこと」から、抜粋してご紹介します。

2010.5.4 〔安曇野〕

武石で２泊し、東京に帰ることにしていましたが、母子の希望で美術館によることができました。何冊読んでも「もう少し見る」と次から次へと絵本を探ってくる長女、まねをして絵本を見つけてくる次女、館内の雰囲気に日常の慌ただしさから解放されている母と父、忙しい世の中において力となるのはやはり自然と、美しいものを感じる心なのだと実感しています。

2010.7.1 〔安曇野〕

ヨコノリスポーツマニアな彼が、美術館につきあってくれるなんて思わなかった。しかも、絵本を読むのに熱中してる。

2011.6.12 〔東京〕

3.11 東日本大震災で被災し、福島原発事故で放射能汚染の恐怖におびえ、心休まる日がありませんでした。でも昨日、姪の結婚式で上京し、久々に楽しい時間を過ごし、今日美術館で癒され、これからの生活に少しだけ勇気を持って行けそうな気持ちになりました。子どもは未来の宝です。放射能の健康被害は、数十年後の子どもたちの将来を脅かす、恐ろしい事象です。どうか一日も早く原発事故が収束し、以前のような平穏な生活が戻りますように。天国のちひろ先生、見守っていてください。

2011.11.26 〔東京〕

次男とふたりで来ました。ちひろさんのアトリエ、昭和40年代の匂いを感じさせる懐かしい情景でした。僕の周りにもこんな雰囲気の部屋、あったなあ。息子をほったらかしにして、一人感慨にふける父でした。

2013.3.1 〔安曇野〕

手から手へ展、作品と寄せられたメッセージに力強い叫びを感じました。本当に今、なんとかしなければ地球が壊れてしまう……そんな叫びとともに、誰かのことを抱きしめられる手のぬくもりも同時に伝わりました。私たちの手は壊すためではなく繋がるためにあるのだと。

2013.9.1 〔東京〕

入院の外泊に、人生２度目の来館。このまま美術館から病院へ戻ります。ひとりの闘病は辛くさびしいですが、ここを訪れて、少し心が軽くなった気がします。やさしい時間のながれるこの空間に連れてきてくれた母に、そして温かい心にしてくれたちひろさんに感謝します。
春から社会人になりますが、今日感じた気持ちを忘れずに生きていきたいです。

2014.3.14 〔東京〕

初めての来館ですが、繰り返し訪れる方の気持ちが分かりました。ぼーっと過ごせる場所なのですね。復元アトリエ横の i-pad で聴ける、夫善明さんのインタビューがたいへん良かった。サンドイッチが食べたくなります。昔の感想ノートが製本されていて、かつて来館した人のことばを眺めているのも、なんだかふしぎな気分になります。

2014.3.26 〔東京〕

楽しかったです。色の洪水です。よくわからなかったのに目に焼き付いている絵もあります。わかりやすいことが全てではないんですね。またパツォウスカーさんの絵に会いたいです。

2015.3.1 〔安曇野〕

白馬方面から、車を走らせて来館しました。途中、左手に電車にカバーがかかっているのを見つけ、「もしや、トットちゃんの電車では?」と、楽しみに入館しました。来年、また、３月１日に来ます。本物のトットちゃんに会えるかしら？ 下の娘が、この４月、小学校に入学します。元気だけど早生まれの小さい娘。“なじめなかったらどうしよう”“ついていけなかったらどうしよう”と考え込むたびに、昔読んだ「窓ぎわのトットちゃん」を思い出します。

2016.1.9 〔東京〕

多動で常動音声（しかも人間離れした）のある自閉症の子の親です。美術館など静けさを求められる場所にはあまり縁がありませんでしたが、とうとうその娘といっしょに来館することができました。また来たいです。

2016.8.12 〔安曇野〕

あそんだり、スイーツ食べてピクニック気分になれたりとても楽しかったです。広場も芝生だからころんでもいたくなくて、子どもが遊ぶにはとてもさいてきな場所でした。 電車の教室の近くの休憩所も、木の新しい香りで、とてもいごこちが良かったです。安曇野ちひろ公園サイコー!